

1 「さ・ぬ・き力」(非認知能力)に関する学級(35名)の実態

授業づくりの重点項目		
<p>社交性</p>  <p>さ力</p> <p>共感性 協調性</p>	<p>目標への情熱</p>  <p>ぬ力</p> <p>粘り強さ 忍耐力</p>	<p>自分を信じる力</p>  <p>き力</p> <p>レジリエンス 自制心</p>
<p>「社交性」の自覚度が高い。特に「人と仲良くなろうとしている」の質問項目に対して、肯定的に答えている子供が多く、自分から積極的に関わろうとする子供が多い。また、「協調性」についても自覚度が高い。友達の話最後まで聞こうという意識をもっている子供が多く、友達が発表する時などは、最後まで話を聞いて、同意や質問など反応を返すことができる。</p>	<p>「目標への情熱」の自覚度が高い。特に「授業の中で、新しいことを知るのが楽しいと感じている」の質問項目に対して、肯定的に答えている子供が多い。授業中も、資料を読んだり友達の意見を聞いたりして新たな事実を知ったときには、驚きや感嘆の声が出るなど素直に喜びを表現する様子が見られる。「忍耐力」の自覚度が他に比べると低い。難しい問題は、友達の発表を聞いてからノートに記述する様子も見られる。</p>	<p>「自制心」の自覚度が高い。計画を立ててその通りに行動していくことのよさを感じている子供が多い。一方で、「自分を信じる力」の自覚度が低い。「自分には得意なことがある」という質問項目には肯定的に答えた子供は多いが、「今の自分のことが好きだ」という質問項目には否定的である。高学年として、委員会活動や係活動に積極的に取り組む子供が多いことから、より成長したいという思いの表れだと捉えることができる。</p>

2 教科に関する学級の実態

- ・社会科の授業が(どちらかといえば)好き(33名)
 - ・社会科の勉強は(どちらかといえば)得意(27名)
 - ・北海道について知っている(6名)
 - ・北海道について知っていること(酪農, 湖, 面積が大きい, 雪まつり, てんさい, ジンギスカン)
- 旅行先として、中四国地方以外の遠隔地を挙げた子供が24名いた。また、旅行に行った理由として家族に会うためや何らかの用事以外を挙げた子供は20名であった。ほとんどの子供がレジャー目的の旅行に親しんでいるが、北海道が日本有数の観光地であることはあまり知らない様子が見られる。

3 個別支援が必要な子供の実態

A児…注意が散漫になりやすく、一つのことを継続して行うことが難しいが、自分の興味のある物事や自分が選択したことに対しては高い関心を示し、粘り強く取り組むことができる。

第5学年西組 社会科学学習指導案

「開拓民が拓き、厳しくも豊かな自然が観光客を惹きつける北海道の人々の暮らし」

学習指導者 滝井 康隆



1 本単元で目指す『自ら伸び続ける子供』の姿

【詳細はこちら】

本単元では、アイヌ民族と開拓民の歴史、特殊な地形・気候条件を有する北海道の人々の暮らしについて学習する。前単元までに子供たちは、日本は地域によって地形や気候が大きく異なることを理解している。その中で、自地域よりも冬の寒さが厳しい北海道で人々が生活を始めたことに疑問を感じる。時間的視野を広げ、アイヌ民族が住んでいた土地に本州や四国から多くの開拓民が渡ったが、極寒の地で努力を重ねて土地を拓く必要があったことを知った子供たちは、現在に至るまでに人々がどのような工夫を重ねてきたかを学習していく。そして、現在の北海道の人々の生活や産業の様子に疑問をもち、家の造りと冬の寒さや雪の関係を考えていく。また、空間的視野を広げながら北海道の産業を調べていく。北の海を生かした水産業や、広大な平野と夏でも冷涼な気候を利用した農業が行われ、生産額は全国一位になっていることを知る。その後、それらに匹敵する観光収入があることを知った子供たちは、なぜ北海道がそれほど多くの観光客を集めるのか疑問をもち話し合っていく。例えば、「北海道では、いろいろなイベントが行われているよ。だから人が集まるのではないかな」「写真で見る雪まつりは、たくさんの雪が使われているよ」「雪でスキーができるし、気候を生かした作物もおいしいものが多いよ」「この資料からは、流氷が来るような世界自然遺産などきれいな自然の多さが分かるよ」「他地域にはない北海道の自然条件が人を集めているのかな」などと、友達と交流することで多様に意見を出し合いながら考えていくのである。このような学習を通して、北海道では開拓の歴史の上に、気候に合わせた生活や豊かな自然を生かした産業が営まれていることを理解した子供たちは、行ったことのない他の特徴的な地形や気候条件を有する地域の生活の様子も捉えようとしていくだろう。

2 単元計画と働きかけの概要 (本時 5/6)

㊦：価値付け

次	学習の流れ	働きかけ
二	<p>① 北海道はどのようなところだろう</p> <p>有名な観光地など北海道に関する知識を共有し、冬の北海道は厳しい寒さに悩まされること、かつてはアイヌ民族の土地だった広大な場所に、開拓民が移住したことを理解する。</p>	<p>見通し 情【問いを確認】②～⑥</p> <p>北海道の人々の生活に関して学んだことから生じる疑問やその理由を全体で確認し、興味を感じやすくする。㊦疑問に思うことやその理由を言葉にできた姿やそれを聞いて共感できている姿を称賛する。</p>
	<p>② なぜ北海道に移住しようと思ったのだろう</p> <p>開拓民たちは、広大な土地を求めて移住し、厳しい寒さの中で粘り強く土地を開拓してきたことを理解し、現在の人々の生活の実態と北海道で産業を営むよさに疑問をもち。</p>	<p>行動 社【考えまとめボード】①～⑥</p> <p>個人によって色の違う付箋に考えを書いてボードに貼り付け、同じ考えの付箋をまとめる。㊦班でたくさんの考えを出せたこと、友達と進んで関わり考えをまとめたことが解決につながったことを称賛する。</p>
	<p>③ 北海道の人々は、快適に生活できているのだろうか</p> <p>現在では、厳しい寒さに合わせて家の造りを工夫するなど、施設によって冬の低い気温や雪から生活を守っていることを理解する。</p>	<p>振り返り 信【付箋振り返りタイム】</p> <p>①～⑥ 班での話し合いを振り返り、課題解決に対する自分の関わりについて記述する。㊦自分の関わり方のよさに気付いたり、次時の話し合いをよりよいものにする方法を考えたりしている姿を称賛する。</p>
	<p>④ 北海道の人々は、どのような産業を営んでいるのだろう</p> <p>北海道の広大な土地や冷涼な気候を生かした農業が行われ、生産額全国一位であることを理解する。観光収入がそれを上回ることを知る。</p>	
	<p>⑤ なぜ北海道は多くの観光客を集めることができるのだろう</p> <p>北海道ならではの文化や豊かな自然を生かした観光地があるために人々を集めることができていることを捉える。</p>	
	<p>⑥ これからの北海道の観光業を盛り上げていくためには、何を大切にしていくとよいだろう</p> <p>コロナ禍により観光業が打撃を受けていることを知り、もっと自然を生かすなど、よりよい観光の在り方を考えていく。</p>	
三		

3 本時の学習

目 標	北海道に多くの観光客が集まる理由を考え話し合う活動を通して、夏でも冷涼な気候や広大な森林など北海道の特殊な自然が生んだものが観光に生かされているという自然条件と観光業の関係を捉えることができる。
--------	---

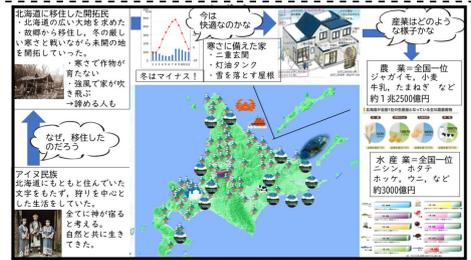
学習活動と働きかけ	主な子供の意識			
見 通 し	1 学習課題を確認する。 【問いを確認】 【目標への情熱】	北海道は広い土地や夏でも冷涼な気候を生かして大規模な農業を行ったり、北の海の豊かな海産物をとったりしていたよ。 それらの生産額と同じくらいの約1兆5000億円の観光収入がある。 広い土地で農業をしたり、近くの海で海産物がとれたりするから、たくさん稼げるのは分かるけど、それと同じくらい観光でも稼げるのは不思議だな。 たくさんの観光客が北海道に集まっている理由を考えたい。		
なぜ北海道は多くの観光客を集めることができるのだろう				
行 動	2 北海道が多くの観光客を集める理由を考え話し合う。 【考えまとめボード】 【社交性】	北海道について見聞きしたことやこれまでの学習を思い出してみよう。 北海道にはスキー場がたくさんあるよ。スキーをしたり、雪で遊んだりできるよ。 自然遺産などに登録された場所も多いよ。流水や広い花畑など美しい景色を見に行く人も多いのではないかな。 雪や寒さなど、気候が人々を集める。	北海道には雪まつりなどいろいろなイベントがあるよ。これを見に行くのではないかな。 雪は氷点下が続くから質がよいのだったね。冬は流水を見るツアーもあるよ。雪も流水もどちらも北海道にしかないね。 自然を生かしたイベントが人々を集めている。	牛乳やカニなどおいしいものも多いよ。これらを食べに行くのだと思うよ。 雪まつりは見たことがあるよ。大きな雪像をつくることのできるの、北海道の気候のおかげだね。 おいしいものや有名な場所が人々を集める。
振 り 返 り	3 北海道の自然条件と観光の関係についてまとめる。	これらは、ほかの地域には無いものなのかな。 北海道の気候だから雪質のよいスキー場や、広い花畑ができるよ。 多くの観光客を集める、イベントやスキー場、おいしいものや有名な場所も、北海道の気候や広大な森林や平野などの自然環境が生み出したものだな。 北海道の人たちは、寒さに悩まされることもあるけれど、それらの自然環境を生かして多くの観光客を集めることができているのだね。		
振 り 返 り	4 本時の学習を振り返る。 【付箋振り返りタイム】 【自分を信じる力】	北海道が観光客を集める理由を班で話し合えたよ。 たくさんの付箋を書いて、みんなに考えを伝えられたよ。次の時間も続けたいな。 もう少し、みんなの考えを詳しく見てまとまりを考えてみたいな。次の時間は、積極的にやってみよう。 班で話し合うと、考えが広がったよ。次もよりよくしていこう。		

評 価	観光客が北海道に集まる理由を考え友達と交流することで多様な考えを取り入れながら、夏でも冷涼な気候や広大な森林など北海道の自然が観光に生かされているなどと自然条件と観光業の関係について考えたことを表現し、次にしたいことを見いだしている。 【方法：様相・記述】
--------	--

働きかけの詳細資料

～見通し～ 情【問いを確認】(2～6時間目)

補助黒板に、北海道の人々の生活に関する既習事項をまとめて掲示しておく。開拓民の努力によって厳寒の地に少しずつ農業が根付いていき、現在では家に寒さ対策を施したり、大規模な農業等、生活を支える産業が発展してきたことを調べ、北海道の自然条件とくらしの関係について考えてきている。



【既習事項をまとめた補助黒板】

本時では、北海道の農業や水産業の生産額が全国一位であることは、広い土地や夏でも冷涼な気候を生かして農業をしたり、豊かな北の海による豊富な海産物が得られたりすることから、妥当であることを共通理解する。そこで、北海道が農業と水産業の生産額に匹敵する額の観光収入を得ていることを確認し、そこから生じる疑問やその理由を表出させる。それらの疑問を整理して学習課題として設定し、本時の学習課題に興味を感じやすくする。注意が散漫になりやすいA児には、学習課題をノートに記述する時間に疑問に思うことを個別に聞くなど声掛けを行い、本時の課題を一緒に確認する。

価値付け 疑問に思うことやその理由を発言できた子供に対し、「確かにそれは不思議だね」などと共感する。また、友達の発言を聞いてうなずいたり、肯定的な反応をしたりしている姿を「友達の発言を聞いて自分の疑問をはっきりさせることができましたね」などと称賛する。

～行 動～ 社【考えまとめボード】(1～6時間目)

北海道が多くの観光客を集める理由について考えていく際には、既習事項を参考にしながら、短い言葉で付箋に考えを記述し班で一枚のボードに貼り付けていく。班の4人がそれぞれ違う色の付箋を使用することで、自他の考えの区別をつけ、他者の意見を意識しやすくする。個人で付箋を書いた後、全員で付箋の内容を吟味し、類似の付箋をまとめてラベリングしていくことで、互いの意見のつながりを意識しながら必要感を持って交流することができるようにする。全体交流で自然条件と観光業の関係を明らかにしていく。A児の手が止まっている場合は、個別に声を掛け、意見を聞きながら付箋を一枚作成することで、付箋を書くことに意識を向けることができるようにする。

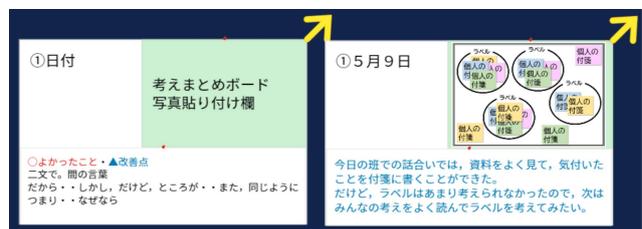


【考えまとめボード】

価値付け 全体交流後、ボードでの話合いを想起させ、多くの考えに触れ、理由を聞きながらラベリングできたことを「班でたくさんの考えを出すことができましたね。出された考えについて積極的に話し合えたので課題解決につながりましたね」などと称賛する。

～振り返り～ 信【付箋振り返りタイム】(1～6時間目)

本時分かったことをノートに記述し、全体で確認した後、学習用端末で本時の「考えまとめボード」の写真を撮り、学習支援アプリに記録する。また、ボードを基にしながら、班での話合いにおける自分の関わり方を振り返り、よかった点や改善点について文章で記述して記録する。文章は紙に書いたものを写真で記録するか、直接文字入力するかどちらでもよいことを共通理解しておき、やりやすい方法で取り組めるようにする。振り返りを記録する方法を選択できるようにすることで、A児もノートに記述したり端末を操作したりするなど、自分に合った方法で積極的に取り組めると考える。



【振り返りの記述を記録する学習支援アプリ】

価値付け 振り返りを全体で発表する際に、課題解決のために付箋を積極的に書いたことや、付箋を操作して考えをまとめることができたことを想起できている姿や、次の時間の話合いをさらによりよいものにするために自分ができていることを考えている姿を称賛する。